

わらびひとすはじころ

蕨に人が住み始めた頃



平成6年(1994)に中央2丁目で行われた発掘調査で、弥生～古墳時代の遺物が出土し、蕨の歴史が大きくさかのぼることが判明した。この遺跡は「金山遺跡」と名付けられた。

金山遺跡発掘風景

せんらんしんこう

戦乱と信仰

わらびじょうあと

蕨城跡 (中央 4-21-29)



南北朝時代に渋川氏が依拠し、大永4年(1524)頃に北条氏綱に攻められて落城、永禄10年(1567)に上総国三舟山合戦で渋川氏が戦死したため廃されたといわれている。江戸時代初期には鷹狩の際に休憩地として利用された。

県指定 MAP ④

いっほんしんづか

一本杉塚 (北町 1-20-4)



蕨を開拓した金子氏ゆかりの塚、渋川氏関係の戦死者を葬った塚などと伝えられる。

市指定 3 MAP ⑩



板碑は、中世に盛んに造立された死者を供養するための塔婆。この板碑は、11人の結衆が逆修(生前に死後の冥福を祈る仏事)のために造立したもの。緑泥片岩製で、中央上部に阿弥陀如来が線刻されている。

市指定 10 MAP ⑨

なかせんどうわらびしゅく

中山道蕨宿

蕨宿は、中山道の江戸から2番目の宿場町として慶長17年(1612)頃に成立したと考えられている。町並みは南北10町(約1.1km)、天保14年(1843)の人口は2223人、家数430軒。本陣2軒、脇本陣1軒があり、宿の周囲が用水堀で囲まれていることが特徴である。

わらびほんしんあと

蕨本陣跡 (中央 5-17-14)



本陣は、宿場に設けられた大名や公家などの宿泊所。蕨宿の本陣は加兵衛家と五郎兵衛家の2家が代々務め、加兵衛本陣には老中水野忠邦や皇女和宮などが宿泊している。

市指定 5 MAP ②



明治元年(1868)、明治天皇が小休のため蕨宿本陣に到着した場面を描いたもの。

※ 歴史民俗資料館(中央5-17-22)でパネルを展示しています

MAP ①

とくがわしょうぐんけしゅいんじょう

徳川將軍家朱印状 (北町 3-2-4 三学院)



天正19年(1591)に徳川家康より寺領20石を寄進する旨の朱印状が三学院に与えられ、以後歴代將軍からも同様の朱印状が授与された。(6代・7代・15代將軍の朱印状は將軍在職期間の関係から発給されていません)

市指定 27 MAP ⑨

※ 一般公開はしてませんが、歴史民俗資料館(中央5-17-22)で徳川家康朱印状の複製を展示しています

さんかくいんわらびしゅくかんけいぼしきぐん

三学院蕨宿関係墓石群 (北町 3-2-4 三学院)



蕨宿で本陣を務めた加兵衛家・五郎兵衛家、脇本陣を務めた新蔵家などの墓石群。

MAP ⑨

はね橋

はね橋 (北町 3-5-4)



はね橋 昭和 38 年 (1963)



復元されたはね橋

蕨宿は周囲を用水堀で囲まれていたため、家の裏手に「はね橋」を設けて出入りをしていた。はね橋を引き上げると、家への出入りができなくなるため、防犯効果があったと考えられる。

MAP ⑪

おりものわらび

織物のまち・蕨

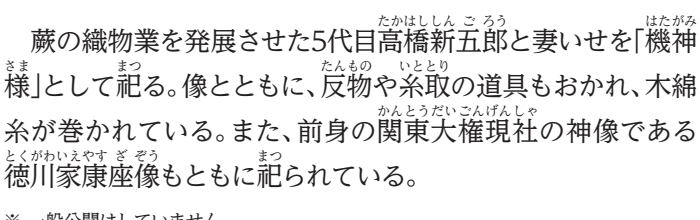
蕨では、江戸時代後期から塚越村を中心に綿織物業が盛んになり、織物のまちとして発展した。双子織に代表される綿製品は、良質で値段も安価であったため評判となった。

はたしんじや

機神社 (塚越 3-2-19 塚越稻荷社境内)

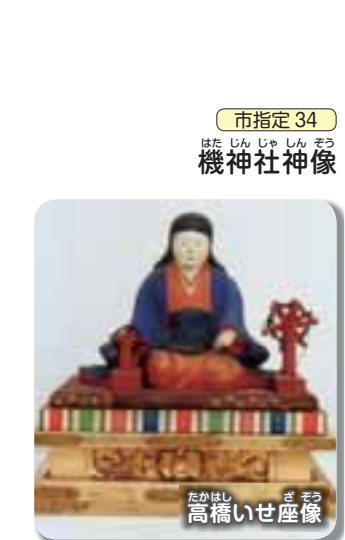


市指定 7 MAP ⑩



蕨の織物業を発展させた5代目高橋新五郎と妻いせを「機神様」として祀る。像とともに、反物や糸取の道具もおかれ、木綿糸が巻かれている。また、前身の関東大権現社の神像である徳川家康座像とともに祀られている。

※ 一般公開はしていません



市指定 34 機神社神像



高橋新五郎座像



徳川家康座像

かずまふうさいがきょうごふききょうらいき

数馬夫妻画像並機業由来記 (部分) 嘉永 3 年(1850)



5代目高橋新五郎が高橋家の織物業の由来と発展について記したもの。5代目高橋新五郎と妻いせの肖像が描かれている。

※ 歴史民俗資料館(中央5-17-22)で展示しています

MAP ①

ふたこおりしまちよう

双子織縞帳



市指定 6 MAP ①

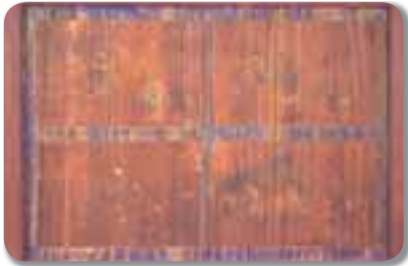


高橋家で生産された織物の縞柄見本帳。蕨の特産品となった双子織の柄見本や、英国マンチェスターの紡績会社のラベルなどが貼付された貴重な資料。

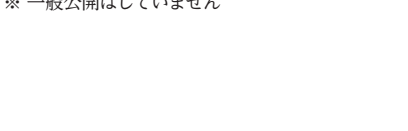
※ 歴史民俗資料館(中央5-17-22)で展示しています

はたおりさへま

機織図絵馬 (中央 5-17-22) 明治 35 年(1902)



市指定 35 MAP ①



画面を四分分割し、糸染から製織、製品検査、販売までの作業工程が描かれている。明治時代の蕨の織物業の様子を伝える貴重な資料。

※ 一般公開はしていません

＊蕨の学校教育＊

明治3年(1870)、昌平坂学問所の儒官であった石川直中を迎え、下蕨に蕨郷学校が開校した。蕨郷学校は同5年(1872)の学制施行によって公立小学校となり、現在も市立北小学校として150年に及ぶ歴史を刻んでいる。



第一蕨尋常高等小学校 (現 市立北小学校) 昭和 3 年 (1928)



第二蕨尋常小学校 (現 市立東小学校) 大正 13 年 (1924)



石川直中

＊蕨駅の開業＊

明治26年(1893)、蕨駅が開業。当時の列車発着本数は、上野・青森駅間が上下各5本、上野・前橋駅間が上下各6本で、蕨・上野駅間の運賃は12銭であった。鉄道の開通により人や物の往来が盛んとなり、蕨の発展へとつながっていった。



蕨駅と駅員 昭和 3 年 (1928)



洪水の蕨駅前通り 明治 43 年 (1910)

＊蕨空襲と成年式＊

昭和20年(1945)、蕨は3回の空襲を受け、被災家屋約400戸、死者は50名に達し、埼玉県内では熊谷市に次ぐ被害をこうむった。翌21年(1946)、若者たちを励まそうと、全国に先駆けて「成年式(成人式)」が行われ、蕨市では、現在も「成年式」の名称で20歳の祝典を開催している。



第 1 回成年式 昭和 21 年 (1946)



蕨報国農場での収穫風景 昭和 17 年 (1942)

食糧不足のため、現在の南町にあった空き地に蕨報国農場がつくられた。写真は川口高等女学校の生徒によるサツマイモ収穫の様子。